

第 I 部

平成24年産の事業運営の内容

1. 大豆入札取引の概況

(1) 取引参加者登録状況

売り手登録者は、前年産と同じく全農、全集連の2者であった。

買い手登録者は、法人、個人合わせて170者で前年産の167者から3者増加した。

また、同一の法人で本社、支社等がそれぞれ参加する場合にそれぞれを1とした事業所数ベースの登録者数は、176者で前年産の173者から3者増加した。

(図表 I-1-1)

(2) 入札取引開催状況と入札参加状況

平成24年12月19日の第1回から平成25年7月24日の第12回まで開催した。月別には12月、1月、2月各1回、3月～7月毎月2回開催した。(図表 I-1-2)

各回の入札者数は、第3回(2月20日)の96者が最も多く、第1回(12月19日)の49者が最も少なかったが、前年産の同時期を上回ることが多かった。(図表 I-1-3)

入札回数別買い手登録者の分布をみると、前年産に比較して入札回数11回以上の者の割合が前年産23%から27%に増え、一方、一度も入札しなかった者も前年産25%から32%に増えた。(図表 I-1-4)

(3) 国産大豆の供給と入札取引数量

平成24年産大豆の生産は、作付面積は、全国で5千6百ヘクタール減少した。

作柄は良く、平均単収180kg/10aと過去5年間では最も高い水準となった。

作付面積の減少にかかわらず、作柄に恵まれたことから、収穫量は、前年産に比べ1万7千トン増の、23万6千トンとなった。(図表 I-1-5)

地域別の収穫量をみると、作付が減少し、作柄も前年を下回った九州で収穫量が減少し、関東・東山で前年並みであった他は、何れの地域でも増加した。

国産大豆の供給状況を示す。(図表 I-1-6)

平成24年産は、全農、全集連の集荷数量は、播種段階、収穫開始段階とも前年産に対し減少を見込んだが、集荷実績数量は前年産に対し1万4千トン増の18万5千トンとなった。

入札取引による販売数量(以下、「落札数量」という。)の割合は、前年産の21%を上回る26%となった。

平成16年産から24年産までの月別の落札数量と平均落札価格の推移をグラフに示す。(図表 I-1-7)

各月の落札数量は、19年産から大きく減少した20年産以降、毎年産低調な取引で推移したが、平成23年産から、活発な取引に転じ、当年産の月平均落札価格は、前年産と同様に月を追って上昇する傾向を示した。

売り手の販売数量を入札取引、相対取引、契約栽培取引の3種類の販売方法別数量に区分してみると、販売数量合計が前年産から増加する中で、入札による販売数量は、前年産を1万2千トン上回る4万8千トン、契約栽培取引は、前年産を2万7千トン上回る9万1千トンとなった一方で、相対取引による数量は、前年産を2万4千トン下回る4万6千トンとなった。(図表I-1-8, 9)

産地品種銘柄毎の集荷数量と落札数量を比較したのが図表I-1-10である。

主要な銘柄のうち、集荷数量に対する落札数量の割合(落札割合)が30%を上回った銘柄は、フクユタカ、エンレイ等豆腐原料となる各産地の銘柄である。

一方1%を下回った銘柄には、納豆原料として利用される小粒・極小粒銘柄の主要な銘柄である北海道スズマル、ユキシズカ、茨城納豆小粒が含まれた。

(4) 入札・落札状況

入札状況を相場・入札ロット数の比較で見ると、全期間を通じて入札ロット数が相場ロット数を上回り、特に入札ロット数を相場ロット数で除した割合(入札倍率)は、全期間2倍以上の状況が続き、5月以降5倍以上に達した。(図表I-1-2、図表I-1-11)

落札結果を見ると、各回不落札が不落札の大部分を占めるようになり、前年産と同様に落札下限価格未達による不落札が少ない状況で推移した。(図表1-1-12)

月別落札状況は、図表1-1-13のとおりである。

相場数量に対する落札数量の割合(落札率)は、高い水準で推移し、年産平均では76.5%となり、平成23年産の60.2%を上回った。

各月までの落札数量の累積グラフを見ると、5月で前年産を上回った。(図I-1-14)

(5) 落札価格

1俵(60kg)当たり年産平均落札価格は、前年産(8,299円)をやや下回る、8,145円であった。(図表I-1-15)

月別平均価格の推移を見ると7,000円台で始まり、月を追って上昇し、6月に9,000円台に達して7月に当年産の取引を終了した。(図I-1-16)

当協会が入札取引を開始した平成12年産以降の年産別平均落札価格の推移を見ると、平成17年産以降7,000円前後で推移した後、23年産において8,000円台に上昇し、当年産では、前年産並の価格であった。(図I-1-17)

産地品種銘柄別の落札価格を見ると、銘柄によりまちまちであるが、主要な銘柄では23年産では東海地方での気象災害で減収した岐阜・愛知・三重フクユタカが500円程度下落したほか、佐賀フクユタカ、新潟、富山エンレイ等主要な豆腐原料用銘柄の価格が前年産を下回った。一方、宮城ミヤギシロメ、宮城タンレイ、秋田リュウホウ、青森おおすず等東北地方の銘柄が前年産に比べ価格が上昇した。(図表I-1-18)

主要産地品種銘柄のうち、代表的なものの月別落札価格の推移を過年産と比較

したグラフを以下に示す。(図表 I-1-19~21)

主に豆腐用に仕向けられる銘柄のうち、九州及び東海地方のフクユタカは、取引開始時に 8,000 円台の高い水準となったが、前年産に比べてその上昇は穏やかなものとなった。(図表 I-1-19)

新潟県を始め、主に日本海沿岸各県で生産されるエンレイは、産地によって異なった動きを示したが、取引期間中の価格の変動は、前年産に比べて穏やかであった。(図表 I-1-20)

北海道の代表的銘柄である北海道とよまさりは、前年産と同様に取引期間中価格が上昇したが、前年産に比べ、その動きは穏やかであった。(図表 I-1-21)

とよまさりを構成する各品種の落札状況をみると、主に煮豆等に仕向けられるユキホマレが最も多く、次いで主に豆腐用に仕向けられるトヨムスメであるが、ユキホマレの落札数量が更に増加した一方、トヨムスメは、前年産に比べ、大幅に減少し、価格もユキホマレを下回った。(図表 I-1-22)

代表的な納豆仕向用銘柄である北海道スズマル、ユキシズカ、茨城納豆小粒の落札状況を示す。(図表 I-1-23、図表 I-1-24)

集荷数量は、3 銘柄計で前年産を上回っており、特に北海道ユキシズカが約 800 トン増加した。一方、落札数量は、前年産を上回ったものの、集荷数量に対する割合は、3%と入札での販売が少ない状況が続いている。

内外の大豆価格の推移を示す。(図表 I-1-25)

国内産と同じ用途と考えられる海上コンテナによる輸入大豆の価格は、前年に比べて約 1,000 円高い、4,900 円となり、国産価格は前年並みであったことから、内外価格差は縮小した。(図表 I-1-26)

平成24年産大豆入札取引年報

I - 1 図・表

図表 I-1-1 登録者数推移

年産	売り手		買い手	
	登録者数	うち 全国団体	登録者数 (事業体数)	(事業所数)
平成12年産	6	2	140	
平成13年産	2	2	148	
平成14年産	2	2	161	
平成15年産	2	2	180	187
平成16年産	2	2	185	193
平成17年産	2	2	181	189
平成18年産	2	2	184	192
平成19年産	2	2	180	187
平成20年産	2	2	182	189
平成21年産	2	2	184	191
平成22年産	2	2	180	187
平成23年産	2	2	167	173
平成24年産	2	2	170	176
増減	0	0	3	3
平成23年産買い手登録者の 内、24年産の登録をしない者			-2	-2
新規買い手登録者			5	5

注1. 買い手登録者数(事業所数)は、同一企業で複数の事業所(本店、支店等)を登録した場合、それぞれを1と数えた数である。

注2. 継続には、会社組織が変更になる等で新規の組織が以前の組織から業務を承継した場合を含む。

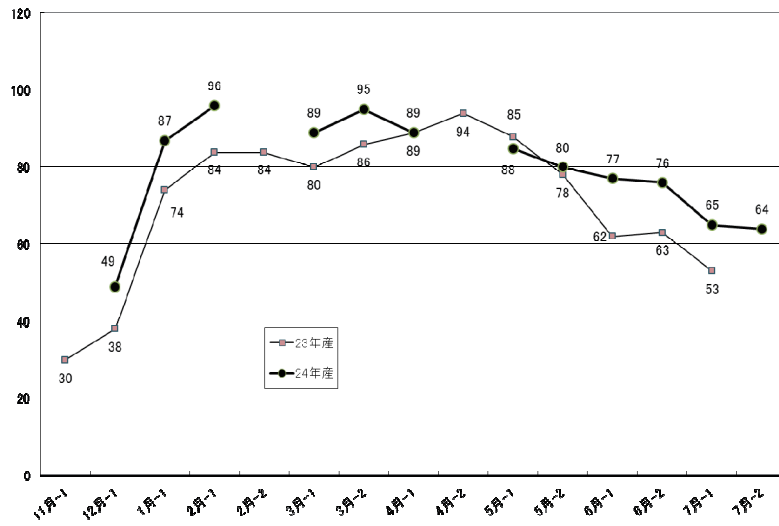
1

図表 I-1-2 開催状況

入札回	入札日	上場者 者	入札者 者	ロット数		
				上場	入札	入札/上場
1	12月19日	2	49	347	804	2.3
12月計				347	804	2.3
2	1月23日	2	87	784	2,039	2.6
1月計				784	2,039	2.6
3	2月20日	2	96	834	2,442	2.9
2月計				834	2,442	2.9
4	3月13日	2	89	867	2,576	3.0
5	3月27日	2	95	748	2,651	3.5
3月計				1,615	5,227	3.2
4	3月13日	2	89	867	2,576	3.0
5	3月27日	2	95	748	2,651	3.5
3月計				1,615	5,227	3.2
6	4月17日	2	89	724	2,644	3.7
4月計				724	2,644	3.7
7	5月15日	2	85	337	1,686	5.0
8	5月29日	1	80	286	1,649	5.8
5月計				623	3,335	5.4
9	6月12日	1	77	276	1,449	5.3
10	6月26日	1	76	259	1,370	5.3
6月計				535	2,819	5.3
11	7月10日	1	65	245	1,213	5.0
12	7月24日	1	64	233	1,116	4.8
7月計				478	2,329	4.9
計				5,940	21,639	3.6

2

図 I - 1 - 3 各回入札者数推移



3

図表 I - 1 - 4 入札回数別買い手登録者数(年産比較)

区分	平成21年産 (17回)	平成22年産 (15回)	平成23年産 (14回)	平成24年産 (12回)	割合			
					平成21年産	平成22年産	平成23年産	平成24年産
買い手登録者数	191	187	173	176	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
0回	66	71	43	56	34.6%	38.0%	24.9%	31.8%
1~5回	60	52	46	36	31.4%	27.8%	26.6%	20.5%
6~10回	37	46	45	37	19.4%	24.6%	26.0%	21.0%
11回以上	28	18	39	47	14.7%	9.6%	22.5%	26.7%

4

表 I-1-5 大豆生産概況

	20年産	21年産	22年産	23年産	24年産	対前年増減
作付け面積 (ha)						
全国	147,100	145,400	137,700	136,700	131,100	-5,600
北海道	24,000	24,500	24,400	26,400	27,200	800
都府県	123,100	120,900	113,200	110,300	103,900	-6,400
東北	42,700	41,600	37,700	35,200	32,700	-2,500
北陸	15,800	15,400	14,600	14,000	13,100	-900
関東・東山	14,700	14,400	13,500	12,400	11,100	-1,300
東海	10,600	10,700	11,100	11,600	11,500	-100
九州	23,400	23,000	21,100	22,000	20,900	-1,100
その他	15,900	15,800	15,200	15,100	14,600	-500
収穫量 (t)						
全国	261,700	229,900	222,500	218,800	235,900	17,100
北海道	56,800	48,500	57,800	59,900	68,000	8,100
都府県	204,900	181,400	164,700	158,900	167,900	9,000
東北	61,900	57,000	48,100	47,700	50,000	2,300
北陸	26,700	24,200	20,000	19,800	23,300	3,500
関東・東山	25,200	23,700	16,400	17,300	17,600	300
東海	16,200	9,880	17,500	12,300	16,100	3,800
九州	50,100	45,000	43,800	43,700	40,100	-3,600
その他	24,800	21,620	18,900	18,100	20,800	2,700
単収 (kg/10a)						
全国	178	158	162	160	180	20
北海道	237	198	237	227	250	23
都府県	166	150	145	144	162	18
東北	145	137	128	136	153	17
北陸	169	157	137	141	178	37
関東・東山	171	165	121	140	159	19
東海	153	92	158	106	140	34
九州	214	196	208	199	192	-7
その他	156	137	124	120	142	23

資料：農林水産省作物統計

5

図表 I-1-6 国産大豆供給の推移

区分	事項	(単位)	平成22年産	平成23年産	平成24年産	24年産 -23年産
生産実績 (作物統計)	a1 作付け面積	ha	137,700	136,700	131,100	-5,600
	a2 単収	kg/10a	162	160	180	20
	a3 収穫量	トン	222,500	218,800	235,900	17,100
出回り実績 (農産物検査)	b1 検査総数量	トン	188,022	187,645	204,625	16,980
	b2 普通・特定加工用	トン	186,237	185,788	202,952	17,164
	b3 種子用	トン	1,785	1,858	1,673	-185
農家消費等	a3-b1	トン	34,478	31,155	31,275	120
生産者団体等 集荷数量	c1 生産計画作付け面積	ha	113,432	111,421	106,224	-5,197
	カバー率 c1/a1	%	82.4%	81.5%	81.0%	
	c2 生産計画集荷予定数量	トン	190,727	198,724	180,827	-17,897
	c3 集荷見込数量	トン	188,102	180,449	174,964	-5,485
集荷外数量	b2-c4	トン	173,963	171,599	185,424	13,825
生産者団体等 販売数量	d1 入札販売予定数量	トン	12,274	14,189	17,528	3,339
	d2 落札数量	トン	62,495	59,855	57,970	-1,885
	d3 契約栽培取引・相対取引計 c4-d3	トン	20,667	36,202	48,153	11,951
	d2/c4	%	11.9%	21.1%	26.0%	

注

生産者団体等：売り手である全農及び全集連

生産計画：作付時点（6月頃）において生産者団体等が調査した計画数値

集荷見込数量：収穫開始時点（10月頃）において生産者団体等が作成する集荷・販売計画において見込んだ集荷数量

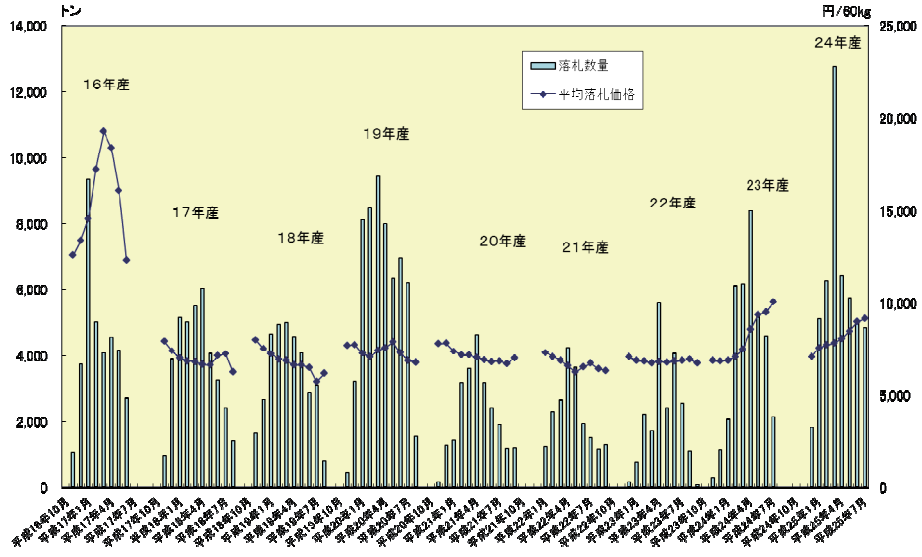
入札販売予定数量：集荷・販売計画において入札取引で販売することとした数量

資料：農水省「作物統計」、農水省「農産物検査結果」、売り手報告、当協会業務資料

資料：農林水産省作物統計、農林水産省生産局大豆検査結果

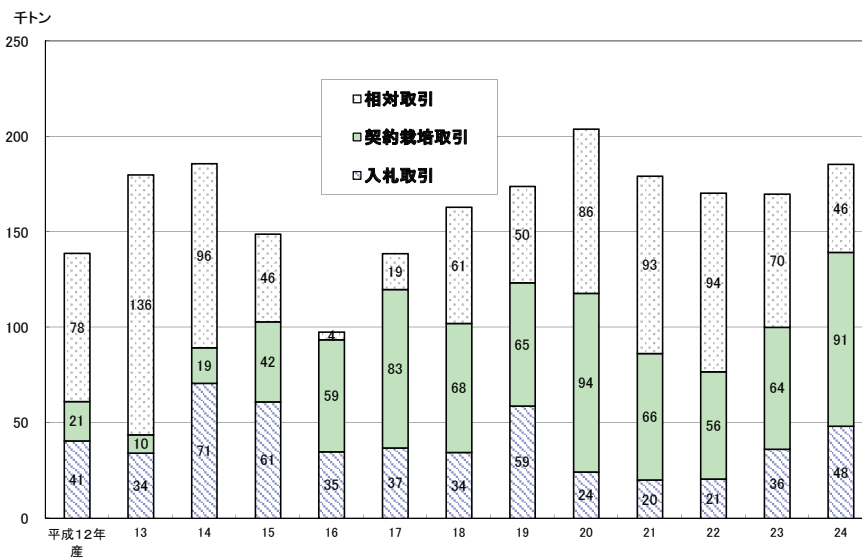
6

図表 I-1-7 月別落札数量・平均落札価格の推移



7

図表 I-1-8 販売方法別販売数量の推移



8

図表 I-1-9 取引方法別販売数量の推移

年産	数量(トン)				割合(%)		
	入札取引	相対取引	契約栽培取引	計	入札取引	相対取引	契約栽培取引
平成12年産	40,563	77,768	20,541	138,872	29.2%	56.0%	14.8%
13	34,051	136,313	9,624	179,988	18.9%	75.7%	5.3%
14	70,637	96,458	18,767	185,862	38.0%	51.9%	10.1%
15	60,936	45,893	41,993	148,822	40.9%	30.8%	28.2%
16	34,772	4,164	58,701	97,637	35.6%	4.3%	60.1%
17	36,866	18,835	83,034	138,735	26.6%	13.6%	59.9%
18	34,407	60,983	67,629	163,019	21.1%	37.4%	41.5%
19	58,879	50,410	64,540	173,829	33.9%	29.0%	37.1%
20	24,211	86,075	93,599	203,885	11.9%	42.2%	45.9%
21	19,980	92,925	66,363	179,268	11.1%	51.8%	37.0%
22	20,601	93,610	56,110	170,321	12.1%	55.0%	32.9%
23	36,191	69,852	63,848	169,891	21.3%	41.1%	37.6%
24	48,153	46,168	91,152	185,473	26.0%	24.9%	49.1%
前年差	11,962	-23,684	27,304	15,582	76.8%	-152.0%	175.2%

9

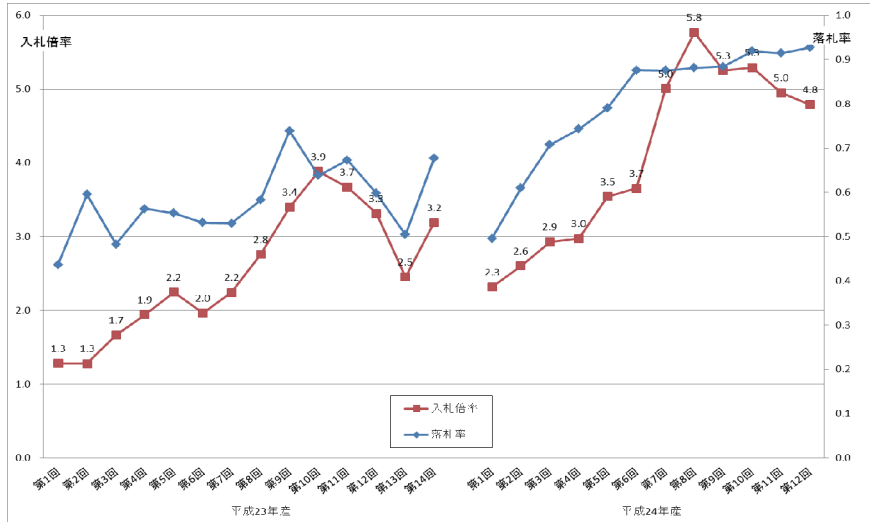
図表 I-1-10 産地品種銘柄別落札実績

産地品種銘柄別落札実績							
単位:トン、%							
産地品種	集荷数量	落札数量	落札割合	産地品種	集荷数量	落札数量	落札割合
北海道とよまさり	34,375	7,894	23.0%	山口サチユタカ	667	268	40.2%
福岡フクユタカ	14,997	5,015	33.4%	福井里のほほえみ	579	228	39.3%
佐賀フクユタカ	14,431	3,744	25.9%	長崎フクユタカ	509	72	14.2%
新潟エンレイ	8,768	2,776	31.7%	宮城あやこがね	501	88	17.6%
秋田リュウホウ	6,999	1,625	23.2%	鳥根サチユタカ	501	171	34.1%
富山エンレイ	6,907	2,280	33.0%	富山オオツル	498	159	32.0%
北海道ユキシズカ	6,714	306	4.6%	愛媛フクユタカ	484	188	38.8%
愛知フクユタカ	6,015	1,996	33.2%	新潟あやこがね	436	67	15.5%
北海道スズマル	5,627	80	1.4%	北海道ハヤヒカリ	398		
宮城ミヤギシロメ	5,475	1,586	29.0%	千葉フクユタカ	384	112	29.2%
青森おおすず	4,824	1,470	30.5%	福島あやこがね	380		
宮城タンレイ	4,747	1,231	25.9%	茨城ハタユタカ	351		
宮城タチナガハ	4,715	1,616	34.3%	北海道ツルムスメ	345		
三重フクユタカ	4,434	1,477	33.3%	大分むらゆたか	320	172	53.6%
栃木タチナガハ	4,002	1,127	28.2%	広島サチユタカ	319		
山形エンレイ	3,836	1,260	32.9%	宮城すずほのか	314	0	0.0%
岐阜フクユタカ	3,748	1,252	33.4%	宮城きぬさやか	260		
茨城タチナガハ	3,112	847	27.2%	石川あやこがね	240	47	19.5%
熊本フクユタカ	3,020	1,036	34.3%	兵庫タチユタカ	229		
滋賀フクユタカ	2,796	911	32.6%	山形あやこがね	216	11	5.3%
茨城納豆小粒	2,196	20	0.9%	鳥根フクユタカ	201	143	70.9%
佐賀むらゆたか	2,186	983	45.0%	兵庫タマホマレ	200		
滋賀とゆたか	1,805	604	33.5%	大分ヨシロメ	198		
石川エンレイ	1,779	575	32.3%	静岡フクユタカ	186	62	33.4%
岩手リュウホウ	1,661	233	14.0%	群馬タチナガハ	184	59	32.3%
長野ナカセンナリ	1,592	331	20.8%	埼玉タチナガハ	181		
滋賀オオツル	1,571	525	33.4%	栃木納豆小粒	176	0	0.0%
岩手ナンブシロメ	1,468	491	33.5%	愛媛フクユタカ	172	30	17.3%
山形里のほほえみ	1,355	413	30.4%	鹿児島フクユタカ	169	10	5.9%
大分フクユタカ	945	186	19.7%	福岡すずおとめ	161		
北海道音更大袖撰	942	196	20.8%	山口フクユタカ	158	38	24.2%
山形リュウホウ	906	382	42.2%	長野ギンレイ	142		
福井エンレイ	861	287	33.3%	北海道大袖の舞	137	24	17.5%
滋賀タマホマレ	781	258	33.0%	鳥取タマホマレ	132	69	52.5%
北海道秋田	752	180	23.9%	岡山トヨシロメ	123		
福島タチナガハ	747	178	23.9%	新潟タチナガハ	110		
鳥取サチユタカ	716	347	48.4%	鳥根タマホマレ	107	50	46.8%
富山シユレイ(東山)	682	226	33.2%	北海道大袖撰	103		

注: 集荷数量100トン以上の銘柄を降順により示す。産地品種銘柄の品種で粒区分で産地品種銘柄に該当しない数量を含む。

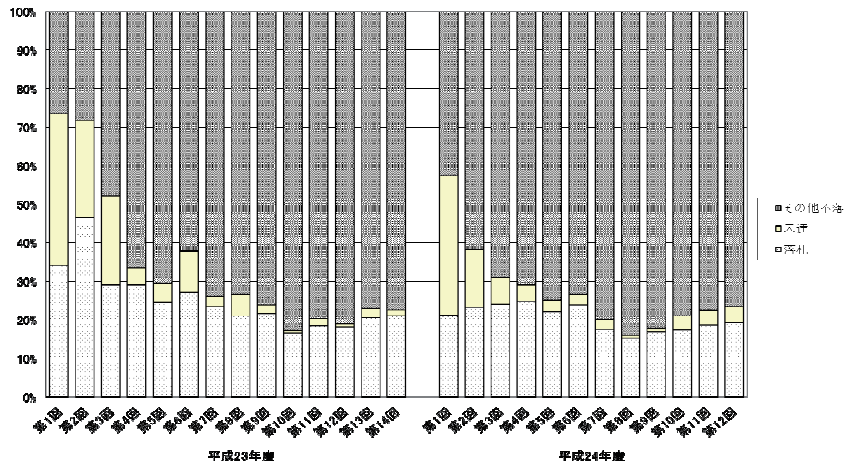
10

図表 I-1-11 入札回別入札倍率・落札率推移



注. 入札倍率: 入札ロット数÷上場ロット数
落札率: 落札ロット数÷上場ロット数

図表 I-1-12 落札結果別ロット数分布



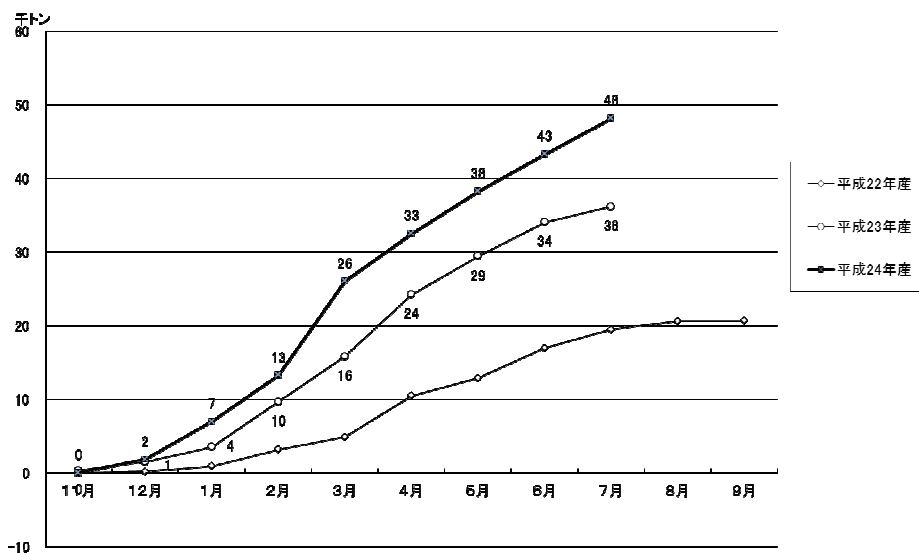
注. 各回の買い手入札ロットの計を100とした場合のロット数割合
数値は、各区分のロット数
未達とは落札下限価格未満の入札のための不落をいう。

図表 I - 1 - 13 月別上場・落札数量・平均落札価格・落札率

入札回	上場数量	落札数量	落札価格	落札率
	トン	トン	円/60kg	%
平成24年12月	3,614	1,822	7,069	50.4
平成25年1月	8,318	5,129	7,588	61.7
2月	8,947	6,301	7,745	70.4
3月	17,201	12,792	7,852	74.4
4月	7,392	6,459	8,107	87.4
5月	6,547	5,746	8,501	87.8
6月	5,622	5,049	9,004	89.8
7月	5,276	4,855	9,165	92.0
平成24年産計	62,918	48,153	8,145	76.5
平成23年産計	60,139	36,202	8,299	60.2
平成22年産計	64,052	20,667	6,829	32.3

注. 普通大豆・特定加工用大豆合計及びその加重平均落札価格である。

図表 I - 1 - 14 月別累積落札数量の推移(年産比較)

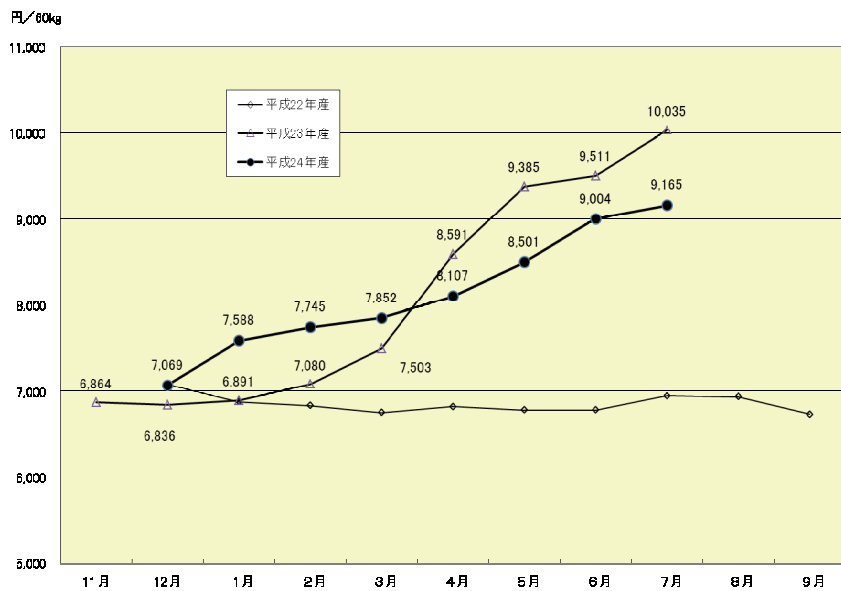


図表 I - 1 - 15 月別平均落札価格(22~24年産)

年産	単位:円/60kg		
	22	23	24
11月		6,864	
12月	7,077	6,836	7,069
1月	6,873	6,891	7,588
2月	6,829	7,080	7,745
3月	6,749	7,503	7,852
4月	6,818	8,591	8,107
5月	6,776	9,385	8,501
6月	6,777	9,511	9,004
7月	6,943	10,035	9,165
8月	6,933		
9月	6,729		
年産平均	6,829	8,299	8,145

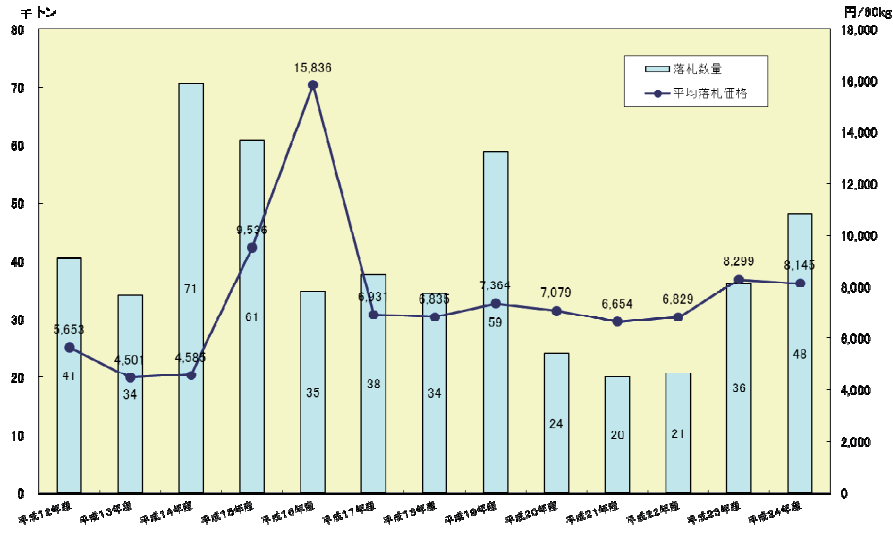
15

図表 I - 1 - 16 月別平均落札価格の推移(年産比較)



16

図表 I-1-17 年産別平均落札価格・落札数量推移

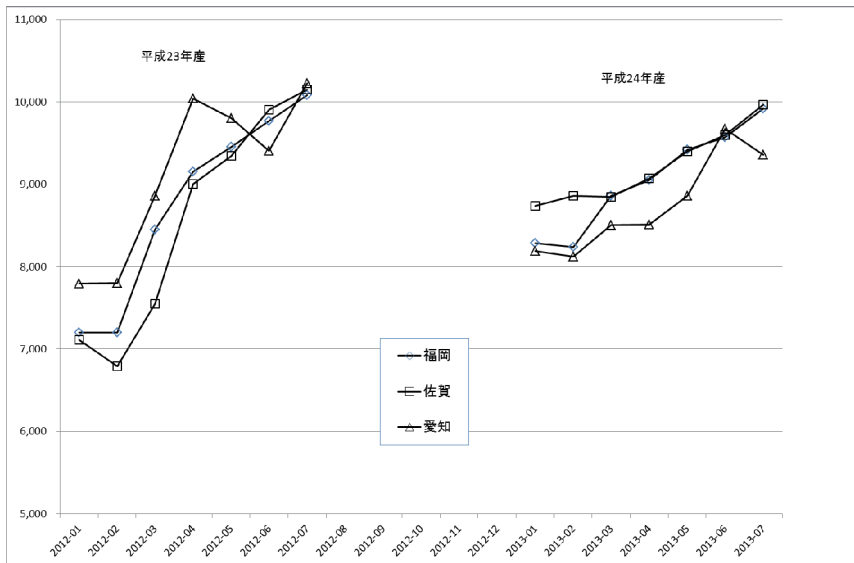


図表 I-1-18 産地品種銘柄別落札価格 (前年産比較・24年産価格降順)

産地品種	平成23年産	平成24年産	前年差	24年産集荷数量	産地品種	平成23年産	平成24年産	前年差	24年産集荷数量
福岡フクユタカ	9,067	9,129	62	14,937	宮城タチナガハ	6,894	7,408	713	4,715
佐賀フクユタカ	9,343	9,122	-221	14,431	北海道ユキシズカ	7,300	7,402	102	6,714
長崎フクユタカ	9,350	9,006	-344	509	宮城ミヤギシロメ	6,768	7,325	557	5,475
滋賀フクユタカ	8,855	8,770	-85	2,796	千葉フクユタカ	7,079	7,235	156	384
北海道音更大袖振	8,691	8,757	66	942	山形あやこがね	7,100	7,100	0	216
山口サチユタカ	8,710	8,757	47	667	栃木タチナガハ	6,702	7,082	380	4,002
熊本フクユタカ	8,822	8,755	-67	3,020	宮城タシレイ	6,656	7,027	371	4,747
愛媛フクユタカ	8,615	8,751	136	484	茨城タチナガハ	7,083	6,998	-85	3,112
愛知フクユタカ	9,228	8,749	-479	6,015	新潟あやこがね	6,960	6,960	0	436
三重フクユタカ	9,288	8,635	-652	4,434	山形リュウホウ	6,458	6,942	483	906
茨城納豆小粒	8,300	8,625	325	2,196	石川あやこがね	7,616	6,932	-684	240
佐賀むらゆたか	7,975	8,603	628	2,186	北海道秋田	6,202	6,928	727	752
岐阜フクユタカ	9,150	8,577	-573	3,748	宮城あやこがね	6,442	6,894	452	501
鳥根サチユタカ	8,213	8,485	272	501	岩手ナンシロメ	6,735	6,864	129	1,468
滋賀こよゆたか	7,664	8,406	742	1,805	福島タチナガハ	6,780	6,780	0	747
大分フクユタカ	7,986	8,374	388	945	秋田リュウホウ	7,106	8,063	956	6,999
山口フクユタカ	9,374	8,332	-1,043	158	富山エンレイ	8,704	8,017	-687	6,907
滋賀タマホマレ	7,030	8,329	1,299	781	岩手リュウホウ	7,079	7,945	866	1,661
滋賀オオツル	9,036	8,284	-752	1,571	福井エンレイ	7,578	7,874	295	861
鳥根フクユタカ	9,663	8,281	-1,382	201	北海道スズマル	7,860	7,860	0	5,627
青森お泊り子	7,364	8,271	906	4,824	北海道大袖の舞	7,338	7,338	0	137
鳥取タマホマレ	9,070	8,267	-803	132	新潟エンレイ	8,245	7,795	-450	8,768
鳥根タマホマレ	8,330	8,267	-63	107	富山シュウレイ	7,780	7,780	0	682
大分むらゆたか	7,744	8,247	503	320	北海道とよまさり	7,678	7,759	81	34,375
鳥取サチユタカ	9,350	8,238	-1,112	716	静岡フクユタカ	8,367	7,704	-663	186
富山オオツル	7,848	8,171	323	498	山形里のほほえみ	8,181	7,649	-533	1,355
福井里のほほえみ	7,577	8,143	566	579	山形エンレイ	7,529	7,612	83	3,636
群馬タチナガハ	7,577	8,126	549	184	宮城タチナガハ	6,894	7,408	713	4,715
長野ナカセンナリ	8,046	8,100	55	1,592	北海道ユキシズカ	7,300	7,402	102	6,714
石川エンレイ	7,597	8,095	499	1,779	宮城ミヤギシロメ	6,768	7,325	557	5,475
秋田リュウホウ	7,106	8,063	956	6,999	千葉フクユタカ	7,079	7,235	156	384
富山エンレイ	8,704	8,017	-687	6,907	山形あやこがね	7,100	7,100	0	216
岩手リュウホウ	7,079	7,945	866	1,661	栃木タチナガハ	6,702	7,082	380	4,002
福井エンレイ	7,578	7,874	295	861	宮城タシレイ	6,656	7,027	371	4,747
北海道スズマル	7,860	7,860	0	5,627	茨城タチナガハ	7,083	6,998	-85	3,112
北海道大袖の舞	7,338	7,338	0	137	新潟あやこがね	6,960	6,960	0	436
新潟エンレイ	8,245	7,795	-450	8,768	山形リュウホウ	6,458	6,942	483	906
富山シュウレイ	7,780	7,780	0	682	石川あやこがね	7,616	6,932	-684	240
北海道とよまさり	7,678	7,759	81	34,375	北海道秋田	6,202	6,928	727	752
静岡フクユタカ	8,367	7,704	-663	186	宮城あやこがね	6,442	6,894	452	501
山形里のほほえみ	8,181	7,649	-533	1,355	岩手ナンシロメ	6,735	6,864	129	1,468
山形エンレイ	7,529	7,612	83	3,636	福島タチナガハ	6,780	6,780	0	747

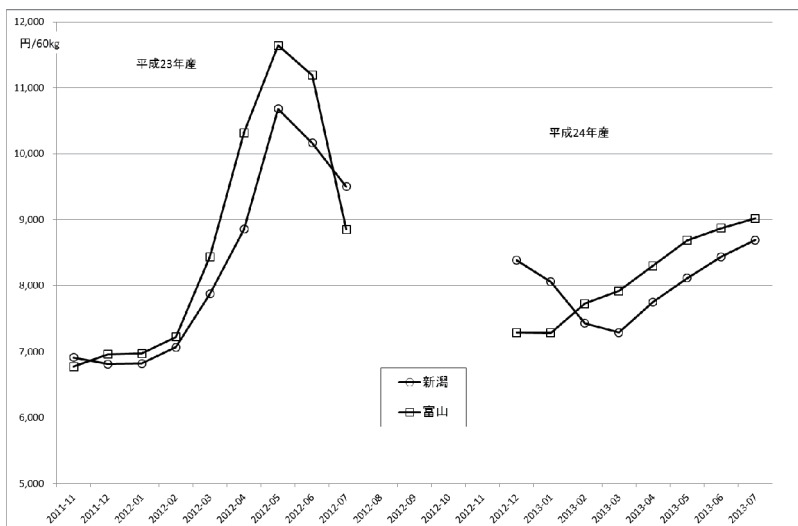
注. 各県の産地品種銘柄の品種毎の平均落札価格である。当該品種の大豆であって、粒区分で産地品種銘柄に該当しない数量を含めて算出した。

図表 I-1-19 主要産地フクユタカ月別落札価格推移



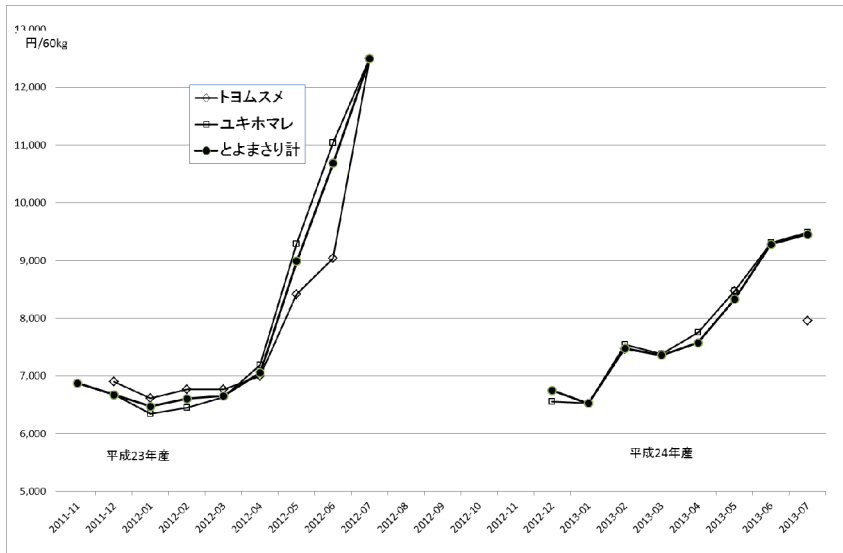
19

図 I-1-20 エンレイ主要産地月別落札価格推移



20

図 I-1-21 北海道とよまさり月別落札価格



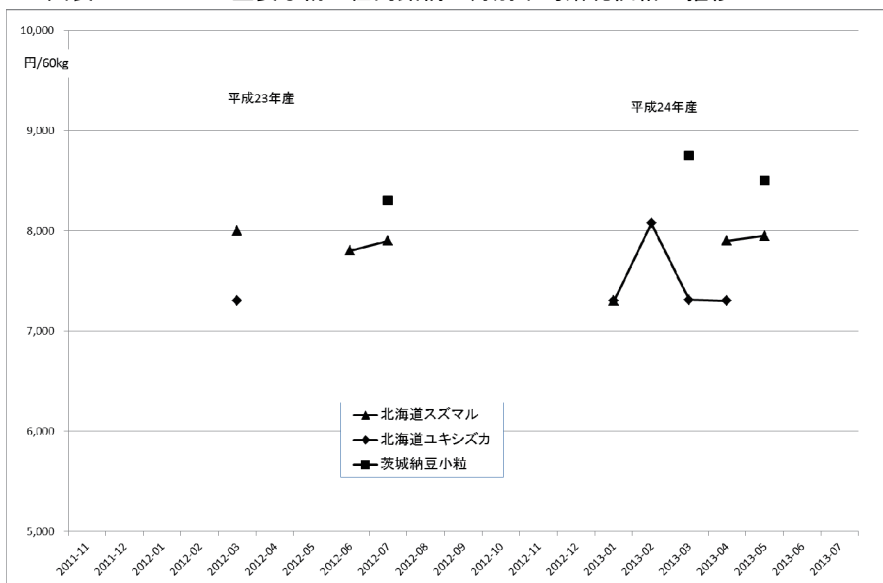
21

表 I-1-22 北海道とよまさり品種別落札状況(年産比較)

事項	品種	平成20年産	平成21年産	平成22年産	平成23年産	平成24年産
落札数量 (トン)	トヨムスメ	445	1,009	1,362	1,576	636
	トヨコマチ	20	129	136	339	358
	トヨホマレ	90	129	11	0	177
	ユキホマレ	1,269	1,688	975	3,686	6,326
	トヨハルカ	89	416	22	265	398
	計	1,913	3,371	2,507	5,866	7,894
落札価格 (円/60kg)	トヨムスメ	7,498	6,704	6,705	7,318	7,584
	トヨコマチ	7,520	5,795	6,549	7,161	7,665
	トヨホマレ	7,411	5,737	6,820		6,849
	ユキホマレ	7,439	6,151	6,331	7,948	7,829
	トヨハルカ	7,286	5,981	6,310	6,730	7,416
	平均	7,445	6,266	6,548	7,678	7,759
落札率 (%)	トヨムスメ	15.4%	64.1%	56.0%	53.2%	91.5%
	トヨコマチ	1.6%	9.0%	9.0%	55.5%	100.0%
	トヨホマレ	9.2%	11.7%	11.2%	0.0%	39.8%
	ユキホマレ	9.0%	10.5%	11.9%	73.6%	79.4%
	トヨハルカ	5.7%	27.0%	10.4%	46.7%	72.7%
	平均	9.2%	15.5%	20.1%	63.4%	78.8%

22

図表 I-1-23 主要な納豆仕向銘柄の月別平均落札価格の推移



23

図表 I-1-24 主要な納豆仕向銘柄落札状況(年産比較)

単位:トン

事項	年産	北海道 スズマル	北海道 ユキシズカ	茨城 納豆小粒	計
集荷数量 A	平成20年産	5,726	1,820	7,987	15,533
	平成21年産	4,854	2,687	2,376	9,916
	平成22年産	5,510	4,530	2,035	12,075
	平成23年産	5,274	5,944	2,370	13,588
	平成24年産	5,627	6,714	2,196	14,537
上場数量 B	平成20年産	1,991	1,233	1,370	4,593
	平成21年産	1,878	4,424	1,628	7,929
	平成22年産	2,328	3,809	1,004	7,142
	平成23年産	3,222	4,765	1,893	9,880
	平成24年産	3,889	3,865	1,864	9,618
落札数量 C	平成20年産	381	253	347	981
	平成21年産	327	386	169	882
	平成22年産	259	80	40	379
	平成23年産	50	10	11	70
	平成24年産	80	306	20	405
落札率 C/B	平成20年産	19.1%	20.5%	25.3%	21.3%
	平成21年産	17.4%	8.7%	10.4%	11.1%
	平成22年産	11.1%	2.1%	3.9%	5.3%
	平成23年産	1.5%	0.2%	0.6%	0.7%
	平成24年産	2.0%	7.9%	1.1%	4.2%
集荷数量に 対する落札 割合 C/A	平成20年産	6.6%	13.9%	4.3%	6.3%
	平成21年産	6.7%	14.4%	7.1%	8.9%
	平成22年産	4.7%	1.8%	1.9%	3.1%
	平成23年産	0.9%	0.2%	0.4%	0.5%
	平成24年産	1.4%	4.6%	0.9%	2.8%

24

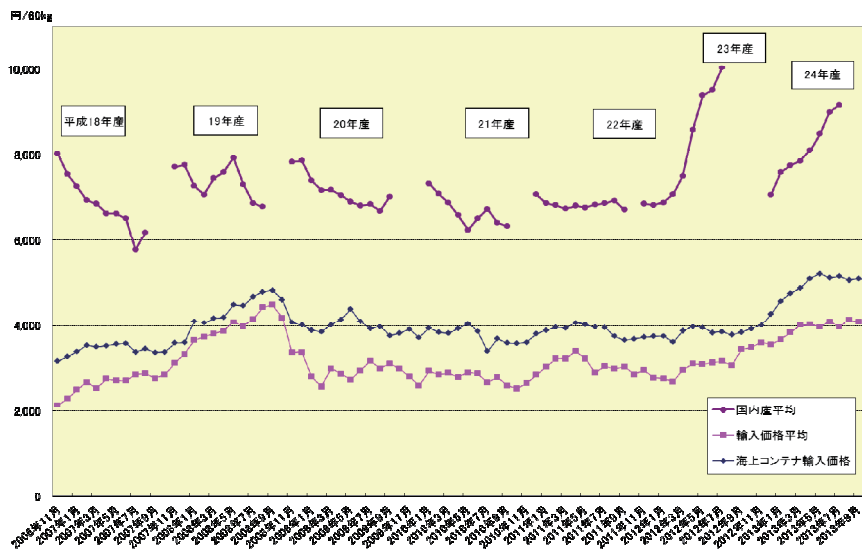
表 I-1-13 主要納豆仕向銘柄落札価格(年産比較)

単位:円

年産	北海道 スズマル	北海道 ユキシズカ	茨城 納豆小粒	平均
平成20年産	11,611	11,128	10,832	11,211
平成21年産	8,594	7,338	8,251	7,978
平成22年産	8,221	7,275	8,545	8,055
平成23年産	7,860	7,300	8,300	7,847
平成24年産	7,860	7,402	8,625	7,552

25

図表 I-1-25 内外大豆価格推移(2006.11月~2013.10月)



資料. 国内産: 月別平均落札価格、輸入: 財務省貿易統計

26

図表 I - 1 - 26 年産別内外価格差推移

単位: 円/60kg

年産	国産 A	輸入 海上コンテナ B	輸入計 C	A-B	A-C
平成22年産	6,829	3,864	3,023	2,965	3,806
平成23年産	8,299	3,824	3,043	4,475	5,256
平成24年産	8,145	4,897	3,921	3,248	4,224

資料: 財務省「貿易統計」

注1: 輸入価格は、国産価格との比較のため、国産大豆の出回り期に相当する11月から翌年10月までの金額の集計値を数量の集計値で除して産出した。

注2: 輸入・海上コンテナは、運送形態が海上コンテナによるものであり、輸入計の内数である。

2. 大豆入札取引の運営に関する特記事項

(1) ウェブ入札システムの運用

当協会では、平成22年度において大豆入札取引システムにインターネットを通じて入札を行うことができる機能を付加するためのシステム（ウェブ入札システム）の開発を行い、システム機器のリース契約の更改に伴い、平成23年産大豆入札取引からウェブ入札システムの運用を開始した。

平成23年産取引においては、比較的入札頻度が高く、入札ロット数の多い買い手に協力を要請し、システムを利用した入札を行ってもらい、使い勝手等を確認した。

平成24年産取引では、出来るだけ多くの買い手に利用いただくよう要請し、平成23年産からの継続も含め、ウェブ入札のためのID、パスワードを配付した買い手は、17者となった。

入札ロット数に占めるウェブ入札によるロット数の実績は、下表に示すように2割強であった。

図表I-2-1 回別ウェブ入札ロット数

入札回	上場ロット数	入札ロット数 A	うちウェブ入札 ロット数B	B/A
1	347	804	86	10.7%
2	784	2,039	244	12.0%
3	834	2,442	477	19.5%
4	867	2,576	630	24.5%
5	748	2,651	726	27.4%
6	724	2,644	754	28.5%
7	337	1,686	324	19.2%
8	286	1,649	318	19.3%
9	276	1,449	284	19.6%
10	259	1,370	289	21.1%
11	245	1,213	275	22.7%
12	233	1,116	256	22.9%
計	5,940	21,639	4,663	21.5%

なお、運用上明らかとなった課題及びその対応策は、以下の通りである。

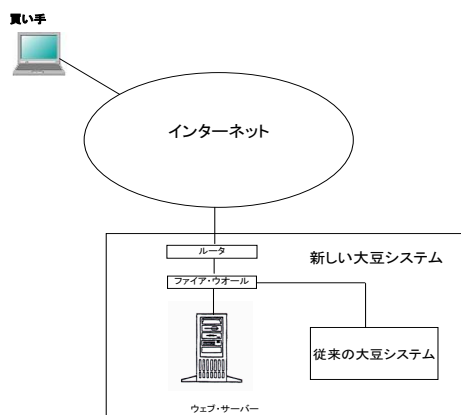
ア 1 法人複数登録買い手における入札保証金照合

1 法人で本社と支店等複数の事業所を登録している買い手の場合、従来、複数の事業所の入札金額を1の入札保証金と対応させる（合算）ことと、事業所毎に入札保証金を預託し、それぞれの入札金額をそれぞれの入札保証金と対応させる（別計算）ことのどちらかを選択できる仕組みとしていた。しかし、ウェブ入札システムで合算方式をとる買い手の入札を処理することはシステム上できないことが明らかとなった。このため、該当する買い手には入札保証金を事業所毎に分割し、別計算とすることを要請し、了解を得て変更を行うとともに、平成25年産取引に向けて、合算方式を廃止することとして関係規定を変更することとした。

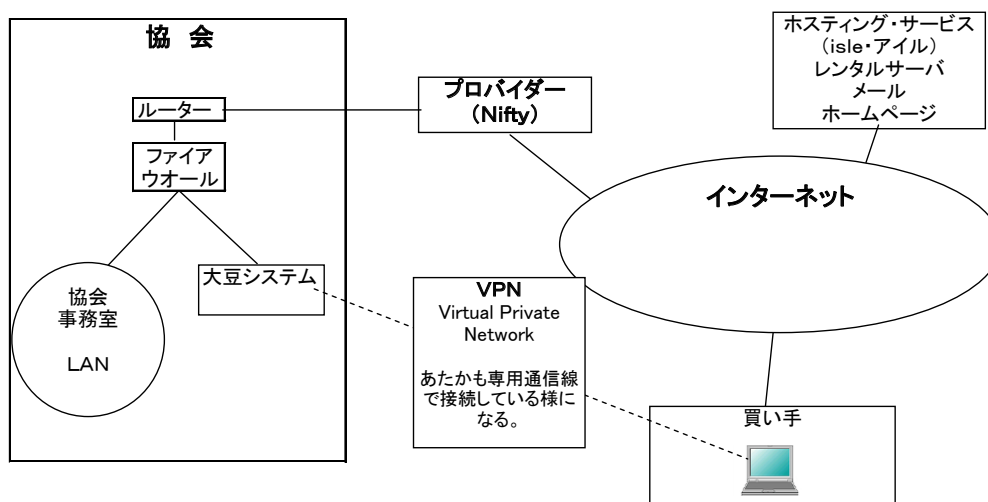
イ 入力データ等のプリンター出力

ウェブ入札の操作で入力内容や確定内容をパソコン画面上だけでなく、プリンターから出力して確認したいとの意向が利用者から提示された。ブラウザの印刷機能を利用することで、そのままでも可能ではあるが、画面表示に従って容易に操作が出来るようにシステムの修正を行った。その他操作上の改善のためのシステムの修正を行った。

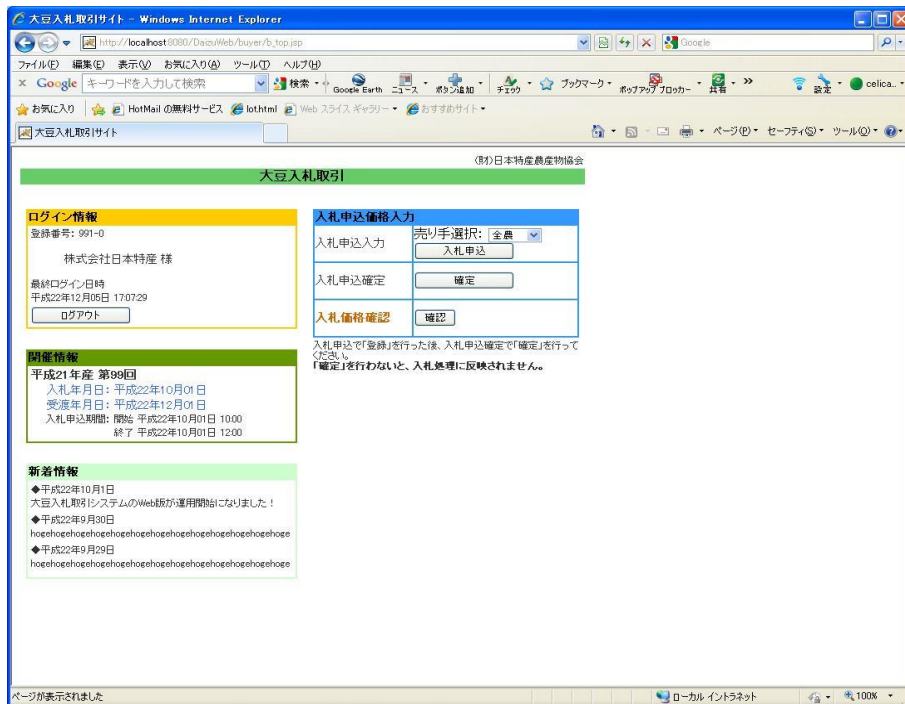
図表 I-2-2 システム概念図



インターネット接続概念図



図表Ⅱ－２－３ 買い手入札画面のイメージ
修正前



修正後



(2) 年産入札取引開始の準備

平成24年8月

協会ホームページにおいて平成24年産大豆入札取引登録に関する以下の案内を行った。

新規売り手登録申請受付案内

新規買い手登録申請受付案内

平成23年産売り手登録者及び買い手登録者に対し、平成24年産取引のための登録手続きについて、文書で案内した。

(3) 年産入札取引運営方針

平成24年10月23日開催の入札取引委員会において以下の運営方針を申し合わせた。

① 月別入札取引回数の予定

月2回実施を基本とし、必要に応じて調整する。

② 落札大豆の受渡期限

入札日から60日以内（前年産と同じ）

③ 入札取引結果の公表

各月の次の集計値を資料に取りまとめ、各月月末（休日等の関係で日程は適宜調整する。）に登録者に配付・公表する。

(ア) 普通大豆・特定加工用大豆別産地品種銘柄等・粒別上場数量、落札数量、落札価格

(イ) 平均落札価格（普通大豆・特定加工用大豆加重平均値）

配付・公表の方法：登録者に郵送、インターネットの協会サイトに掲出、農林水産省内記者クラブ等に配布

(4) 取引監視

年産の取引開始時点の平成24年12月11日に取引監視委員会全体委員会を開催し、監視の方針について審議した。

また、入札取引実施回ごとに3名の委員が立ち会い、不正がないことを確認した。

取引終了後の平成25年8月27日に取引監視委員会全体委員会を開催し、監視経過について審議した。

無効札の状況について、下表の通り報告した。

無効ロットは、入札ロット数の大幅な増加により保証金残高の10倍までとした入札金額を超えることにより無効となったロット数は、前年産を上回る440に達した。

図表 I - 2 - 4 年産別無効札

年産	入札ロット数	無効札 ロット数	うち保証 金関係	有効札 ロット数
平成18年産	7,831	54	30	7,777
平成19年産	13,563	231	215	13,332
平成20年産	5,328	16	7	5,312
平成21年産	3,319	12	0	3,307
平成22年産	4,770	0	0	4,770
平成23年産	11,602	169	169	11,433
平成24年産	21,639	440	440	21,199

(5) 公益財団法人移行に伴う諸規程の改正

当協会は、公益法人改革に伴う法人制度の変更により、特例民法法人から公益財団法人への移行を申請して認可され、平成25年4月1日付けで公益財団法人日本特産農産物協会となった。

これに伴い、大豆入札取引に関わる諸規程について、名称の変更等の見直しを行った。併せて、関係文書を整理し、必要に応じて内容の見直しも行った。

改正等を行った規程は、以下の通りである。

- ・大豆入札取引委員会運営規程
- ・大豆の入札取引に係る業務規程

3. 平成24年産入札取引に係る平成24年度協会業務・財務資料

(入札取引業務部分抜粋)

(注：平成24年産大豆についての入札取引は、平成24年11月から平成25年10月に実施されるため、予算年度は平成24、25年度となる。)

- (1) 平成24年3月23日開催の平成23年度第2回評議員会及び第3回理事会において、平成24年度(平成24年4月～平成25年3月)事業計画及び収支予算案を議決した。
- (2) 平成25年5月日開催の平成25年度第1回評議員会及び第1回理事会において平成24年度事業報告案及び収支計算書案を議決した。

平成24年度事業計画

第1 事業計画

国産大豆については、その振興を図るための施策の一環として引き続き入札取引の透明化・適正化の観点から中立的な第三者機関が入札取引の実施主体となって市場を開設するとともに、その効率的な運営と入札結果の迅速な公表が求められている。

このような情勢のもとで、国の団体を特定した補助事業として、前年度に引き続き大豆価格形成安定化事業を実施する。

第2 会議の開催

- 1 大豆入札取引委員会
- 2 取引監視委員会

第3 大豆価格形成化事業(継続、国庫補助事業)

国産大豆の入札取引の実施主体として市場を開設し、入札取引の透明化・適正化を図るため、次の事業を実施する。

- ① 大豆入札取引委員会の開催
- ② 取引監視委員会の開催
- ③ 入札の実施
- ④ 入札結果の公表
- ⑤ 指標価格の作成・提供
- ⑥ 入札取引を円滑に実施するための情報の提供

平成24年度事業報告書

第1 事業の概要

国産大豆については、その振興を図るための施策の一環として入札取引の透明化・適正化の観点から中立的な第三者機関が入札取引の実施主体となって市場を開設するとともに、入札結果の迅速な公表が求められている。

国が団体を特定した補助事業として前年度に引き続き、大豆価格形成安定化事業を実施した。

第3 事業実施の概要

1 大価格形成安定化事業（継続、補助事業）

国産大豆の入札取引の実施主体として市場を開設し、入札取引の透明化・適正化を図るため、関係団体の協力を得て次の事業を実施した。

(1) 大豆入札取引委員会の開催

第41回 平成24年 5月31日

第42回 平成24年10月23日

(2) 取引監視委員会の開催

取引監視のあり方に関する申し合わせ等を行う取引監視委員会（全体委員会）の開催

第26回 平成24年 9月14日

第27回 平成24年12月11日

入札日当日に3名の取引監視委員が立ち会い、取引の公正が確保されているかを監視するとともに、落札を保留すべきロットの有無を検討、落札を保留すべきロットがあった場合、入札日翌日に当日立ち会った委員1名を含む3名の委員で入札状況等を検討し、不正な入札により無効とすべきロットの有無を確認した。

(3) 入札取引の実施

平成23年産

第8回 平成24年 4月11日

第9回 平成24年 4月25日

第10回 平成24年 5月16日

第11回 平成24年 5月30日

第12回 平成24年 6月13日

第13回 平成24年 6月27日

第14回 平成24年 7月18日

平成24年産

第1回	平成24年12月19日
第2回	平成25年1月23日
第3回	平成25年2月20日
第4回	平成25年3月13日
第5回	平成25年3月27日

(4) 入札取引結果の公表

入札取引が実施された月の入札取引結果について資料を作成し、各月の末日に、入札取引参加者、報道機関に提供するとともに協会ホームページで公開した。

平成23年産入札取引年報（冊子）を作成し、入札取引参加者、関係機関・団体に配布した。

(5) 取引指標価格表の作成・提供

月ごとの入札結果に基づいて取引の指標となる価格（取引指標価格）を整理した表を作成し、売り手（全農、全集連）に提供した。なお、取引指標価格は、産地品種銘柄毎に当該月の加重平均値に基づいて作成している。

大豆価格形成安定化事業特別会計収支計算書

収 支 計 算 書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

大豆価格形成安定化事業

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
事業収入	108,450,000	452,765,938	△ 344,315,938	
入札登録収入	1,900,000	1,780,000	120,000	
運営拠出金収入	6,550,000	4,570,138	1,979,862	
入札保証金収入	100,000,000	446,415,800	△ 346,415,800	
補助金等収入	26,560,000	25,718,000	842,000	
国庫補助金収入	26,560,000	25,718,000	842,000	
事業活動収入計	135,010,000	478,483,938	△ 343,473,938	
2. 事業活動支出				
事業費支出	35,010,000	290,940,338	△ 255,930,338	
入札業務等手当	10,436,000	8,544,621	1,891,379	
システム運営等管理運営費	22,531,680	22,516,877	14,803	
入札取引に関する委員会開催等経費	2,042,320	1,006,640	1,035,680	
入札保証金返還金	0	258,872,200	△ 258,872,200	
事業活動支出計	35,010,000	290,940,338	△ 255,930,338	
事業活動収支差額	100,000,000	187,543,600	△ 87,543,600	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
特定資産取崩収入	0	258,872,200	△ 258,872,200	
事業基金引当資産取崩収入	0	258,872,200	△ 258,872,200	
投資活動収入計	0	258,872,200	△ 258,872,200	
2. 投資活動支出				
特定資産取得支出	100,000,000	446,415,800	△ 346,415,800	
事業基金引当資産取得支出	100,000,000	446,415,800	△ 346,415,800	
投資活動支出計	100,000,000	446,415,800	△ 346,415,800	
投資活動収支差額	△ 100,000,000	△ 187,543,600	87,543,600	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出				
当期収支差額	0	0	0	
前期繰越収支差額	0	0	0	
次期繰越収支差額	0	0	0	

4. 平成24年産入札取引に係る平成25年度協会業務・財務資料

(大豆入札取引業務部分抜粋)

平成25年3月22日開催の平成24年度第3回評議員会及び第3回理事会において、平成25年度（平成25年4月～平成26年3月）事業計画及び収支予算案を議決した。

平成25年度事業計画

第1 事業計画

国産大豆については、その振興を図るための施策の一環として引き続き入札取引の透明化・適正化の観点から中立的な第三者機関が入札取引の実施主体となって市場を開設するとともに、その効率的な入札結果の迅速な公表が求められている。

このような情勢のもとで、前年度に引き続き国庫補助事業として大豆価格形成安定化事業を実施する。

第2 会議の開催

- 1 大豆入札取引委員会
- 2 取引監視委員会

第4 大豆価格形成化事業（継続、国庫補助事業）

国産大豆の入札取引の実施主体として市場を開設し、入札取引の透明化・適正化を図るため、次の事業を実施する。

- ① 大豆入札取引委員会の開催
- ② 取引監視委員会の開催
- ③ 入札の実施
- ④ 入札結果の公表
- ⑤ 指標価格の作成・提供
- ⑥ 入札取引を円滑に実施するための情報の提供

平成25年度 大豆価格形成安定化事業予算

公益財団法人日本特産農産物協会第3条2項で「協会は、前項に規定するもののほか、国産大豆について、入札によって産地品種銘柄毎の品質評価が反映された価格形成を行い、その円滑な流通を促進することにより、良質な国産大豆の需要の拡大を図り、もって国民への食料の安定供給に寄与することを目的とする。」と規定され、平成25年度収支予算書に大豆価格形成安定化事業に係る事項を含めて収支計画が示されている。<http://www.jsapa.or.jp/infomation/pdf/h25ShushiYosan.pdf>

5. 大豆入札取引委員及び取引監視委員名簿

大豆入札取引委員（平成24年6月～）

- | | |
|--------|--------------------------|
| ◎盛田 清秀 | 東北大学大学院農学研究科教授 |
| ○高橋 徳一 | 元財団法人日本豆類基金協会専務理事 |
| 金井 健 | 全国農業協同組合中央会農業対策部長 |
| 木内 節雄 | 全国納豆協同組合連合会理事 |
| 郷 和平 | 一般財団法人全国豆腐連合会理事 |
| 林 英伸 | 全国穀物商協同組合連合会理事 |
| 藤川 満 | 全国主食集荷協同組合連合会常務理事 |
| 本間 光敏 | 全国農業協同組合連合会園芸農産部次長 |
| 吉田 岳志 | 公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会理事長 |
- （◎：委員長 ○：委員長代理）

取引監視委員（平成24年11月～）

- | | |
|--------|--------------------------------|
| ◎盛田 清秀 | 入札取引委員・東北大学大学院農学研究科教授 |
| ○高橋 徳一 | 入札取引委員・元(財)日本豆類基金協会専務理事 |
| 竹之内 定雄 | (社)全国農業改良普及支援協会普及参事 |
| 多田 和子 | NPO法人ちば農業支援ネットワーク理事 |
| 千原 信彦 | 元日本農業新聞論説委員 |
| 都甲 忠義 | 元農林水産省構造改善局計画部資源課課長 |
| 平岩 進 | 元農林水産省北陸農業試験場場長 |
| 矢野 勇夫 | 元(社)日本有機資源協会事務局主幹 |
| 吉田 岳志 | 入札取引委員・公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会理事 |
- （◎：委員長 ○：委員長代理）

6. 大豆入札取引委員会及び取引監視委員会の開催

(平成24年10月～平成25年10月)

(1) 大豆入札取引委員会

第42回 平成24年10月23日

- ① 平成23年産大豆入札取引の経過
- ② 平成24年産大豆生産の状況
- ③ 取引監視委員の指名
- ④ 平成24年産大豆入札取引登録状況
- ⑤ 平成24年産大豆入札取引運営方針について

第43回 平成25年9月10日

- ① 平成24年産大豆入札取引経過
- ② 平成25年産大豆供給見通し
- ③ 業務規程の改正
- ④ 入札取引運営の見直しに関する事項

(2) 取引監視委員会（全体委員会）

第27回 平成24年12月11日

- ① 平成24年産大豆入札取引の見通しと運営方針
- ② 平成24年産取引監視の方針について

第28回 平成25年8月27日

- ① 平成24年産大豆取引経過
- ② 平成25年産大豆供給見通し
- ③ 業務規程改正案の要点
- ④ 入札取引運営の見直しに関する事項